

山形県立荒砥高等学校 創立77周年記念式典

令和7年5月8日(木)荒砥高校創立77周年記念式典が行われました。戦後の混乱が続く、昭和23年、夜間定時制4年間の課程の高等学校として発足しました。旧荒砥農芸学校を本校舎とし、普通科、農業科、被服科の3学科を持ち、蚕桑、鮎貝、東根の各小学校に分校を置いて539名の新入生を迎えています。

いくたびかの課程、学科の改編が行われ、平成25年から総合学科へと学科改編し、現在に至っています。

昔も今も変わらず歌い継がれる校歌は、軽快なテンポでの歌唱が指示されています。これからも、心を合わせて歌い継いでいかなければならない大切なものです。

石田充校長は、式辞の最後に、生徒全員に言えることは、「新しい自分をつくってほしい」。今も支えていただいた白鷹町の地域の皆様をはじめとした多くの皆様に感謝する気持ちを忘れることなく、生徒、教職員みんなで校訓の「克己復礼(こっきふくれい)」の実践に一層取り組んでいきましょう。」と式辞がありました。



声援から激励につながる思い

4月28日(月)県縦断駅伝の2日目、白鷹町役場前が襷(たすき)を渡す地点となっていました。襷を受け取った選手は、本校の坂道を走ります。その選手たちを荒砥生、教職員全員で応援しました。5月2日(金)本校の体育館で壮行式がありました。陸上部・卓球部・囲碁部の3つの部が大会に意気込みを発表してくれました。そこに、白鷹町役場にお勤めで、県縦断駅伝に出場した藤原優希選手と、堀内郁也選手が来校し、県縦断駅伝で声援したことのお礼の言葉と共に激励の言葉をいただきました。

襷はしっかりと受け取りました。練習の成果を発揮し、自己ベストを出せるよう、がんばれ荒高生！

